

「琉球泡盛海外輸出 プロジェクト行動計画」 実施状況

令和元年12月14日

(赤字部分が前回会合からの更新部分)

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
(1) 情報発信の強化			
1	消費者向け提案型集約サイトを確立 【沖縄県酒造組合】	7月末 昨年度リニューアルした酒造組合の公式サイト (https://okinawa-awamori.or.jp) において、各酒造所の情報トピックスなどを取り上げる「PICK UP」の枠で酒造所の旬な情報コンテンツを公開。 ※PICK UPは、各酒造所が当組合公式サイトに取り上げたいコンテンツを事前に組合へ申請して紹介する掲載枠。	47酒造所ごとの紹介PVの多言語吹き替え（テロップ含む）対応を行う。 - 酒蔵ツーリズムを進めていくに当たり、各地域と各酒造所のコンテンツ充実を図り、観光客が地域を回遊するための、旅前・旅中情報として発信を行う。 （例：泡盛×食×文化×人物×土地柄など） - 文化ストーリーについて【琉球泡盛×琉球料理×芸能】による日本遺産コンテンツのストーリー紹介や、体験コンテンツなどを網羅した情報発信も実施していく。
2	観光客に向けた情報発信 【（一財）沖縄観光コンベンションビューロー、沖縄県】	11月3日「泡盛の日」に海外WEBサイト「Visit Okinawa Japan」にて泡盛を特集（英語で12,740、仏語で2,147、独語で981のアクセス）。 - OCVBとして「琉球文化日本遺産推進協議会」の構成メンバーに加入。「泡盛」「琉球芸能」「琉球料理」を沖縄の観光を発信する上での重要コンテンツとして位置付け観光・MICE事業に資していく。	9月4日「古酒の日」や11月1日「泡盛の日」においての情報発信を継続的に行っていく予定。

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
3	海外のイベント等での情報発信 【（一財）沖縄観光コンベンション ビューロー、沖縄県】	・ 日本政府観光局（JNTO）協力の旅行展示会、セミナー、レセプション、沖縄県・OCVB主催の催事において「泡盛の試飲スペースの確保」や、「泡盛のイメージ」を含んだ動画の放映を実施。 ・ 9月27日 韓国での商談会・ランチョンにてシークワサー割の泡盛試飲を提供した。	・ 12月20日 台湾での商談会にて「泡盛を含むコンテンツ」の紹介予定。 ・ 1月20日 タイ・バンコクでの沖縄ナイトにおいて泡盛の提供、映像コンテンツの会場内での放映予定。
4	国のイベント等を活用した情報発信 【内閣府知的財産戦略推進事務局】	・ クールジャパン官民連携プラットフォーム総会において泡盛の女王によるPRを実施。	・ 泡盛の認知度向上や飲用機会の提供を目標として、総会交流会で泡盛を提供しPR（令和2年3月）。
5	インフルエンサー等による情報発信 【内閣府知的財産戦略推進事務局】	・ クールジャパン（CJ）アンバサダーへの情報提供他、知財事務局facebookでの情報発信を実施（11月1日泡盛の日 等）。 ・ CJアンバサダーと宮腰大臣（当時）による、海外に向けた情報発信についての意見交換会を実施（8月27日）。	・ 泡盛の認知度向上を目標として、知財事務局facebookで情報発信に加え、CJアンバサダーへの情報提供を実施する。その他、発信する情報に合わせて適宜発信。
6	各種施策における鑑定官の講師派遣 【国税庁】	・ 6月 G20大阪サミットの開催に合わせて、国税庁ブース内にて泡盛コーナーを設置。海外のメディア関係者に対して、泡盛の試飲や鑑定官による、パネル等を用いた説明を実施。 ・ 11月 東京都酒類業懇話会が主催する研修会にて、酒類販売者を対象として、鑑定官による、泡盛の特性や飲み方、次世代泡盛等についての説明及び試飲会を実施。	・ 各種施策のニーズに応じた琉球泡盛のレクチャー内容を検討し、より琉球泡盛の魅力が伝わるようにする。

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
7	情報発信ツールの整備と活用 【国税庁、沖縄国税事務所】	6月 インバウンドの泡盛認知度の向上を目指して、関係者が泡盛のPRに広く活用できるように、空手などと泡盛をコラボさせたPR動画を作成。 6月・9月 香港・那覇航路のクルーズ船内において、中国人乗船客への試飲会やワークショップ等を開催。 8月 羽田空港国際線ターミナルにおいて、インバウンドを主な対象としたPRイベント「羽田空港泡盛フェスタ2019」を開催し、試飲会等のプロモーションを実施。 8月・9月 インバウンドへの認知度向上を目的として、英語版「酒蔵マップ」、タイ語版のパンフレットを作成し、タイEXP0等で配布。 12月 若狭バースにおいて、琉球泡盛の認知度向上を図ることを目的として、インバウンド及び観光客を対象に、琉球泡盛PR用の広告物を設置。	多言語化したパンフレットの有効な活用方法を検討。
8	インフルエンサー等による情報発信 【沖縄国税事務所】	4月 泡盛の魅力発信を行うため、泡盛クイーンズサポーター（歴代泡盛の女王で構成）を結成。 10月・11月 泡盛クイーンズサポーターを泡盛鑑評会関係行事へ派遣し、泡盛の魅力を情報発信。	- 泡盛クイーンズサポーターを泡盛PRイベント等へ派遣し、泡盛の魅力のスピーカーとして活用する。 - 泡盛の国際的認知度向上を目的として、中国人インフルエンサーを活用したSNSによる情報発信を実施予定。

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
9	海外メディア等を通じた泡盛情報の海外発信 【（独）日本貿易振興機構】	・ 4月14日 沖縄県で開催される島酒フェスタにあわせて、泡盛セミナーを開催。在沖外国人を対象とする英語セッションも設け、泡盛の魅力を紹介（英語セッションには31名が参加）。また、在京米国人である講師の酒蔵訪問等をアレンジ。同氏のSNSに泡盛に関する英語情報が多数掲載された。 ・ 7月1～2日 英国ロンドンで開催された酒類専門見本市「Imbibe Live 2019」に国税庁とともにジャパンパビリオンを設置し、泡盛酒造所を含む泡盛取扱事業者3社の出品を支援するとともに、泡盛を紹介するマスタークラスも開催。 ・ 7月31日～ 輸出商社が行う泡盛を含む日本産酒類のシンガポールでのプロモーションを支援。 ・ 11月7日～9日 香港で開催されたアジア最大級の酒類専門見本市「Hong Kong International Wine & Spirits Fair 2019」にジャパンパビリオンを設置し、酒類輸出商社1社の出品を支援。また、泡盛専用ブースを設置し、泡盛のプロモーションを実施。	・ 今年度中に海外バイヤーを沖縄県に招聘し商談会及び蔵元訪問を実施予定（招聘バイヤーを選定中）。

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
10	琉球泡盛海外輸出プロジェクト・ポータルサイトの構築【プロジェクト事務局】	- 内閣府沖縄総合事務局ウェブサイト (http://www.ogb.go.jp/soumu/017012)にて、平成30年度沖縄酒類製造業自立経営促進事業の報告書、第6回プロジェクト会合の情報等を掲載。 - SNS「琉球泡盛海外輸出プロジェクト」のFacebookグループを開設。⇒「琉球泡盛海外輸出pi-ABP」(リンク) 「琉球泡盛海外輸出プロジェクト」の各種支援内容のまとめサイト(https://okinawa-awamori.or.jp/support/)の情報の充実・更新を図る。	- 内閣府沖縄総合事務局ウェブサイトにて、引き続きプロジェクト関連情報を掲載する。 - SNSにおける「琉球泡盛海外輸出プロジェクト」のFacebookグループにて、関係団体の情報連携を図る。 47酒造所に再度、まとめサイトの支援内容等の周知をはかりつつ、卸小売酒販組合や海外輸出に特化した事業者に対しても、同サイトの周知を強化していく。
(2) 効果的な販路拡大・市場拡大			
1	海外へアプローチするためのペルソナ調査分析【沖縄県酒造組合】	4月 昨年度調査した国別消費者の属性内容を全酒造所に対して情報共有。 - 各酒造所の日常の営業活動における、消費者像の指標のものさしとして活用してもらう一方、想定ターゲットに関する仮説との不一致やズレなどについて、各酒造所から組合へのフィードバックを依頼。	- インバウンド観光客の嗜好情報を効率的に収集するため、WEBやSNSを活用した各種施策を検討する。 - 具体的には「FUN JAPAN」が持っている各国の現地調査ネットワークを活用し、インバウンド観光客ニーズと、自国の消費者ニーズの違いや嗜好などを掘り下げて、実践的なペルソナ像を構築する。
2	国内の大型酒類展示見本市への出展【沖縄県酒造組合】	10月24日～27日 「ツーリズムEXPO in大阪」にて出展を行った。泡盛の歴史文化のプレゼンテーションや他業種との情報収集かけた商談の実施、また試飲体験や泡盛との食べ合わせ体験などを行い、泡盛の魅力を国内外の方々に情報発信を実施。	来年の「ツーリズムEXPO2020in沖縄」での開催に向けて、地域ごとの酒蔵ツーリズムを意識した企画内容を構築していく。 ※各地域ごとの特殊性を可視化して体験できる施策を構築していく。

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
3	沖縄国際物流ハブ活用推進事業 【（公財）沖縄県産業振興公社・沖縄県】	4月1日 以下の項目に係る補助金の申請及び相談受付を開始。 ①見本市・物産展等への渡航費用 ②海外バイヤー等の招聘費用 ③現地での販売促進活動費用 ④商品改良に関する費用など - 企業（泡盛事業者を含む）の積極的な活用を促すため企業向け説明会を実施。 ・那覇：4/3・10 ・名護：4/8 ・宮古：4/4、石垣：4/5	- 引き続き、補助金申請、相談受付を実施。 - 支援制度の積極的な活用を促すため、事業PRを実施。
4	沖縄大交易会 【（公財）沖縄県産業振興公社・沖縄県】	4月19日～7月24日 サプライヤーを募集。 - 県内サプライヤー（泡盛事業者を含む）の積極的な参加を促すため、企業向け参加者募集説明会を実施。（那覇：4/3・5/15、名護：4/8、宮古：4/4、石垣4/5） - 参加企業（泡盛事業者を含む）の成約率向上を目指し、関係機関と協力して各種セミナーの実施 ①7/19 食品流通業界の最新トレンドと長期育成できる売れる商品開発 ②8/2 貿易実務セミナー ③9/2 これだけは知っておくべきEPA/FTAセミナー ④9/24 海外でも売れる商品パッケージの作り方 ⑤10/17 販路が広がる商談の進め方	商談後の成約に繋がるようフォロー及びサポートを実施。

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
4	沖縄大交易会 【（公財）沖縄県産業振興公社・沖縄県】	11月14日～15日 沖縄大交易会において4社の泡盛メーカー（久米島の久米仙、崎元酒造所、比嘉酒造、八重泉酒造）の出展及びサポートを実施	
5	クルーズ船での泡盛の活用促進 【（一財）沖縄観光コンベンションビューロー、沖縄県】	- 現状、船内でのイベント開催での「泡盛」についての積極的な展開は難しい状況だが、クルーズ船発着地でのクルーズ関係者とのイベントや、BtoB向けの商談会、船社訪問時において「泡盛」のPRに努めている。（6月中国アモイで実施） 11月12日 「第二回沖縄クルーズカンファレンス」レセプションにおいて、海外クルーズ船社の関係者へ「泡盛」を提供してその魅力を伝えた。	- 今年度、過去最多の約700回前後のクルーズの寄港回数が県内全体で予定。 - リピートする船社に加えて新規の船社も予定されていることから、船社訪問や、関係者との打ち合わせ、あるいはキャンペーン時においての「泡盛」についての活用の依頼、話題の提供を行う。
6	リゾートウェディングでの泡盛の活用促進 【沖縄県】	11月に上海で実施されるウェディングエキスポにおいて、パンフレット等を活用し、泡盛をPRした。 - 県内リゾートウェディングでも泡盛を取り入れた挙式や引き出物への利用などを行っている。	業界や関連団体等と連携し、リゾートウェディングにおける泡盛の利用促進を図っていく。
7	【（株）沖縄県物産公社】	米国における販路拡大を見据えて、取引条件の変更が必要なことから商流等の見直しを検討中（県内メーカとの調整を含む）	輸出体制及び商流の見直しについて関連企業との調整を進めて行く。

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
8	【（株）沖縄県物産公社】	台湾向け輸出拡大に向けた現地取扱い業者と県内メーカーとの調整（販促活動、販売計画の調整等）を実施。 ※見本市・物産展等への参加、カタログ更新（販売カタログへ泡盛の掲載）	現地取扱異業者と販売拡大に向けた取組みの調整（物産展参加、プロモーション等の実施、他）を継続して行っていく。そして取引先の直営店を中心に現地小売店にて販売強化を図る。
9	沖縄振興開発金融公庫貸付制度（特産品振興貸付制度） 【沖縄振興開発金融公庫】	- 今年度融資実績（4月～10月）：2社、7800万円。 10月末泡盛製造業者への融資貸付残高：31社、30億6100万円。 - うち、特産品振興貸付制度による貸付残高：14社、9億7000万円。 - 公庫調査レポート「泡盛メーカーの現状と課題」（30年6月発刊）を踏まえて資金面及び経営面から支援。 http://www.okinawakouko.go.jp/ - 特産品振興貸付制度の拡充（31年4月）により、海外輸出に向けた取組みを初期段階から金利優遇で支援。 ※制度拡充の内容 海外輸出取組の初期段階（異業種連携の商品開発、マーケティング等の共同化、同業者や商社等と連携した輸出等）の資金にも特別利率を適用。	各事業者の個別の資金需要に対応
10	沖縄振興開発金融公庫貸付制度（泡盛古酒製成事業） 【沖縄振興開発金融公庫】	10月末泡盛古酒製成事業による貸付残高：8社、4億2500万円。	各事業者の個別の資金需要に対応
11	沖縄振興開発金融公庫貸付制度（泡盛在庫担保制度） 【沖縄振興開発金融公庫】	10月末泡盛在庫担保制度による貸付残高：7社、5億2300万円。	各事業者の個別の資金需要に対応

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
12	沖縄酒類製造業の自立経営促進事業 【内閣府沖縄振興局・沖縄総合事務局・沖縄県】	- 今年度は、琉球泡盛のプロモーション等に加え、具体的な商流につなげることを視野に入れ、以下の7分野について事業を実施。 ① 中国白酒戦略 ② 欧米ハードリカー戦略 ③ テロワール・マリアージュ戦略 ④ アジア蒸留酒戦略 ⑤ ウチナーンチュ戦略 ⑥ 琉球空手戦略 ⑦ アワモリビジネスパートナーシップ戦略 4月26日 委託事業開始（契約） 11月末現在輸出数量： 泡盛5.7KL (30度換算) スピリッツ1.5KL リキュール1.7KL	7事業者により、13か国・地域（例：中国、デンマーク、オランダ、オーストラリア、韓国、シンガポール、香港、アメリカ）において、琉球泡盛の販路拡大等に向けたモデル事業を実施。（輸出目標数量：30KL）
13	空手とのコラボによる市場拡大 【内閣府沖縄振興局・沖縄総合事務局・沖縄県酒造組合】	- 沖縄酒類製造業の自立経営促進事業にて、琉球空手戦略として2事業を実施。 7月～10月 「泡盛&空手」をテーマとしたJTA機内での映像の放映、JTA機内誌でのPR記事掲載。	北米（サンフランシスコ、ロサンゼルス）において、「空手と泡盛」の関係性を活用したプロモーションを実施し販路開拓・強化を図る。
14	泡盛海外展開支援 【内閣府沖縄総合事務局】	企業の海外展開を支援する「沖縄国際ハブクラスター事業」の一環として、欧米への展開を図る企業4社の取組を支援するため、海外展示会への出展の一部補助などを実施。	事業進捗に応じ、沖縄総合事務局の有する支援メニュー等の活用や、関係機関等と連携し、マーケティング調査、プロモーション等を支援（欧州、米国）
15	海外の大型酒類見本市への出展支援 【国税庁】	7月 泡盛の海外における認知度向上を図るため、ロンドンで開催されたImbibe Live2019に、日本産酒類プロモーションブースを設置し、泡盛業者（製造、販売）も出展。	引き続き海外における新市場開拓のきっかけを構築すべく、JETROと連携し、出展先を検討。

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
16	海外需要創出等支援対策事業 【農林水産省】	・ ジェトロを通じて泡盛を含む輸出関心事業者に対する情報提供・アドバイス、商談会への出展等実施。 ・ 4月14日 沖縄県で開催される島酒フェスタにあわせて、ジェトロが泡盛セミナーを開催。外国人から見た泡盛の魅力とその伝え方について講演、53名が参加。 ・ 6月19日～22日 台北で開催された総合食品見本市「FOOD TAIPEI 2019」にジェトロがジャパンパビリオンを設置し、泡盛酒造所1社の出品を支援。 ・ 6月24日 沖縄県北部の名護にて沖縄県酒造組合北部事業者を対象に、泡盛輸出に向けた勉強会を開催。ジェトロ沖縄所長が講師を務め、10人が参加。 ・ 7月31日～ 輸出商社が行う泡盛を含む日本産酒類のシンガポールでのプロモーションを支援。 ・ 9月26日～ 専門家による泡盛事業者1社のハンズオン支援を実施中。 ・ 11月7日～9日 香港で開催されたアジア最大級の酒類専門見本市「Hong Kong International Wine & Spirits Fair 2019」にジェトロがジャパンパビリオンを設置し、酒類輸出商社1社の出品を支援。また、泡盛専用ブースを設置し、泡盛のプロモーションを実施。今後、興味を示したバイヤーのフォローアップを実施予定。	・ 今年度中にジェトロが海外バイヤーを沖縄県に招聘し商談会及び蔵元訪問を実施予定（招聘バイヤーを選定中）。

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
17	泡盛特化型輸出支援パッケージ 【（独）日本貿易振興機構】	・ 泡盛酒造所等に対する情報提供・アドバイス、商談会への出展等実施。 ・ 4月14日 沖縄県で開催される島酒フェスタにあわせて、泡盛セミナーを開催。外国人から見た泡盛の魅力とその伝え方について講演、53名が参加。 ・ 6月19日～22日 台北で開催された総合食品見本市「FOOD TAIPEI 2019」にジャパンパビリオンを設置し、泡盛酒造所1社の出品を支援。 ・ 6月24日 沖縄県北部の名護にて沖縄県酒造組合北部事業者を対象に、泡盛輸出に向けた勉強会を開催。ジェトロ沖縄所長が講師を務め、10人が参加。 ・ 7月1日～2日 英国ロンドンで開催された酒類専門見本市「Imbibe Live 2019」に国税庁とともにジャパンパビリオンを設置し、泡盛酒造所を含む泡盛取扱事業者3社の出品を支援。 ・ 7月31日～ 輸出商社が行う泡盛を含む日本産酒類のシンガポールでのプロモーションを支援。 ・ 9月26日～ 専門家による泡盛事業者1社のハンズオン支援を実施中。 ・ 11月7日～9日 香港で開催されたアジア最大級の酒類専門見本市「Hong Kong International Wine & Spirits Fair 2019」にジャパンパビリオンを設置し、酒類輸出商社1社の出品を支援。また、泡盛専用ブースを設置し、泡盛のプロモーションを実施。今後、興味を示したバイヤーのフォローアップを実施。	・ 今年度中に海外バイヤーを沖縄県に招聘し商談会及び蔵元訪問を実施予定（招聘バイヤーを選定中）。

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
18	沖縄で開催されるタイエキスポにおける泡盛プロモーション 【沖縄県】	5月11日、12日 タイフェスティバル2019（東京）に出展し、泡盛をPRした。 10月4日～6日 「タイエキスポ沖縄」を開催、県民や国内外の観光客など約7万人が来場。イベント会場に泡盛ブースを設置し、試飲等をとおして、多くの方々に泡盛をPR。	タイと泡盛の関係性を活かしたイベント等への出展について引き続き検討。
(3) 品質・技術の向上／人材育成			
1	横断的かつ俯瞰性を兼ねた中核人材育成 【沖縄県酒造組合】	今年度は、業界の人材育成の自走化を図るため、国税事務所の鑑定官と連携して、今年度の2月～3月にかけて「官能評価講座カリキュラム」を実施。 ※八重山地区、宮古地区を対象に3日間実施。 ※各地区の酒造所の参加状況を現在確認中。	八重山地区・宮古地区で実施する官能評価講座を、沖縄本島の北部地区、中部地区、南部地区にもあわせて、今後展開を実施していく。
2	酒類卸売業者の泡盛に関する知識の向上 【沖縄県卸売酒販組合連合会・沖縄県小売酒販組合連合会・沖縄県酒造組合・沖縄国税事務所】	9月 泡盛の魅力をインバウンド等に伝えるための能力向上及び訪日外国人の泡盛購買意欲を高めるためのSNSを活用した販売力向上のための講習会を開催。	泡盛の魅力をインバウンドへ伝えるための知識の向上に資する効果的な講習会等を検討。
3	訪日外国人に対する販売力強化 【沖縄県小売酒販組合連合会・沖縄県卸売酒販組合連合会・沖縄県酒造組合・沖縄国税事務所】	9月 泡盛の魅力をインバウンド等に伝えるための能力向上及び訪日外国人の泡盛購買意欲を高めるためのSNSを活用した販売力向上のための講習会を開催。	訪日外国人に対する販売力強化に資する効果的な講習会等を検討。
4	沖縄振興開発金融公庫貸付制度（特産品振興貸付制度） 【沖縄振興開発金融公庫】（再掲）	（再掲のため、省略）	
5	沖縄振興開発金融公庫貸付制度（泡盛古酒製成事業） 【沖縄振興開発金融公庫】（再掲）	（再掲のため、省略）	

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
6	沖縄振興開発金融公庫貸付制度（泡盛在庫担保制度） 【沖縄振興開発金融公庫】（再掲）	（再掲のため、省略）	
7	泡盛鑑評会における品質評価の実施及び結果公表 【沖縄国税事務所】	10月 次世代泡盛の部を新設するとともに、フレーバーホイールを活用した泡盛鑑評会品質評価会を実施。 11月 泡盛鑑評会表彰式を開催し、結果公表。 10月 次世代泡盛の新製品開発研究グループに対する技術的支援を行い、商品化を実現。	泡盛の品質・技術の向上のため、より効果的な評価会や表彰式等のあり方について検討。
（４）ブランド力の向上			
1	沖縄県産泡盛の地理的表示「琉球」の活用促進 【沖縄県酒造組合・沖縄国税事務所】	6月,9月 ゲンティン香港「ワールドドリーム」の船内ゲスト向けの泡盛座学の中で「地理的表示（GI琉球）＝公的な地産認証マーク」であることをワークショップ形式でレクチャーを実施。 - 組合で発行している「琉球泡盛BOOK」に地理的表示の紹介やその理由などを明記したページを追記して印刷。 ※日本語版のみ5,000部納品済	- 地理的表示の紹介やその理由などを明記した「琉球泡盛BOOK」多言語は、翻訳終了後印刷予定。 - 酒造組合で行う様々なイベントでの地理的表示の周知活動を行っていく。
2	「古酒の郷」を古酒ブランド発信基地として活用 【沖縄県酒造組合】	古酒ブランド力の再興を促すために、9月4日の古酒の日での普及啓発イベント及び古酒体験キャンペーン豊潤の時と連携して古酒の魅力発信を実施。	酒造組合で行う、古酒についての様々な啓蒙イベントで周知活動を行っていく。

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
3	首里城による琉球泡盛の歴史的価値に伴うブランド訴求活用 【沖縄県酒造組合】	・ 首里城銭蔵イベントは中止。 ・ 11月2日～3日「壺屋やちむん通りイベント」と連携をはかり、酒器と泡盛の古酒に関する体験イベントを開催。古酒の利き酒体験やワークショップなど、泡盛と壺屋の酒器や陶器についての連携イベントを実施。	・ 今後の実施について検討中。
4	【（株）沖縄県物産公社】（再掲）	（再掲のため、省略）	
5	【（株）沖縄県物産公社】（再掲）	（再掲のため、省略）	
6	沖縄振興開発金融公庫貸付制度（特産品振興貸付制度） 【沖縄振興開発金融公庫】（再掲）	（再掲のため、省略）	
7	沖縄振興開発金融公庫貸付制度（泡盛古酒製成事業） 【沖縄振興開発金融公庫】（再掲）	（再掲のため、省略）	
8	沖縄振興開発金融公庫貸付制度（泡盛在庫担保制度） 【沖縄振興開発金融公庫】（再掲）	（再掲のため、省略）	

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
9	在外公館等での琉球泡盛のPR 【外務省】	・ 在外公館では、任国要人との会食で提供したり、天皇誕生日祝賀レセプション等の大規模行事の際に、泡盛など日本産酒類を積極的にアピール。 ① 6月11日 在英国日本大使館にて開催された国際穀物理事会（IGC）70周年レセプションにおいて、泡盛のPRを実施。 ② 6月28日～29日 G20大阪サミットにおいて、泡盛を提供。 ・ 本省では、在外公館から調達希望を受け、コンクール受賞酒等の日本産酒類を調達・送付。平成29年度から泡盛の調達・送付を開始。	・ 任国要人との会食やレセプション等の大規模行事での活用。 ・ これまでに実施したPR事業の効果・問題点等を踏まえ、在外公館等での泡盛PR事業をより効果的に実施。
10	琉球泡盛のPR 【日本トランスオーシャン航空（株）】	・ 昨年5月にキックオフしたJAL group「琉球泡盛応援プロジェクト」を継続。 ・ 泡盛ベーグルを那覇空港スナックコーナーにて販売を開始。 ・ 「泡盛愉しみ方ガイド（沖縄国税事務所作成）」を那覇空港売店にて配布。 ・ 7月～10月 国内外で人気があり東京オリパラ前で注目度高い「空手」とのコラボレーションによる以下の普及促進策を展開。 ① 「泡盛&空手」をテーマとした機内映像の作成と放映 ② JTA機内誌でのPR記事掲載 ③ 県内空手道場等にて空手愛好家に「カラテマンパス」を配布。空港売店での提示により泡盛等が割引となるインセンティブによる販促の実施 ④ 「空手」銘柄泡盛の機内・空港売店での販売	・ 県内空手道場等にて空手愛好家に「カラテマンパス」を配布し、空港売店での提示により泡盛等が割引となるインセンティブによる販促施策を、当初の「10月末」から「今年度末」まで延長して実施。 ・ 県内関係先との泡盛のコラボレーション商品の企画を検討中。 ・ 泡盛ベーグルの那覇空港国内線ラウンジでの提供を検討中。

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
11	琉球泡盛テロワールプロジェクトの推進 【内閣府沖縄振興局・沖縄総合事務局、 沖縄国税事務所、沖縄県、JAおきな わ、JA沖縄中央会、沖縄県酒造組合、 農林水産省政策統括官・農林水産技術 会議事務局】	2月8日 琉球泡盛の輸出の拡大に向け、泡盛の原料となる長粒種米を県内で生産し、水田農業の活性化を図るとともに、酒造所とのマッチング等に取り組むこととして「琉球泡盛テロワールプロジェクト推進チーム」を立ち上げ。 - 推進チームにおいて、現地説明会や打合せ等を行った結果、令和元年においては、伊平屋村の二期作での生産を決定。 8月22日～9月4日 伊平屋村において2品種の長粒種米（YTH183、北陸193号）を約10ha定植（田植え）。 11月30日収穫開始、12月下旬まで収穫予定。	- 伊平屋村で収穫された長粒種米は、JAおきなわが生産者から買取った上で、沖縄県酒造協同組合へ供給。 - 令和2年については、今期の収穫状況等を踏まえた上で、引き続き2期作での生産に取り組んでいく方向。
12	琉球泡盛の日本遺産への登録 【沖縄県】	5月20日 「琉球王国から連綿と続く沖縄の伝統的な「琉球料理」と「泡盛」、そして芸能」が文化庁により認定。 7月12日 琉球文化日本遺産推進協議会を設立。 10月に高知日本遺産サミット、ツーリズムエキスポ大阪に泡盛ブースを設置し、来場者に日本遺産のストーリーと泡盛をPR。	日本遺産をPRするパンフレット等の広報ツール作成をはじめ、日本遺産ガイドを育成する養成講座の実施、地域住民の理解を深め、日本遺産の活用を図るためのシンポジウム等の開催、観光客に対し、日本遺産を有効なコンテンツとしていくための調査研究事業等を実施する。

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
(5) 輸出環境の整備			
1	沖縄振興開発金融公庫貸付制度 (特産品振興貸付制度) 【沖縄振興開発金融公庫】(再掲)	(再掲のため、省略)	
2	沖縄振興開発金融公庫貸付制度 (泡盛古酒製成事業) 【沖縄振興開発金融公庫】(再掲)	(再掲のため、省略)	
3	沖縄振興開発金融公庫貸付制度 (泡盛在庫担保制度) 【沖縄振興開発金融公庫】(再掲)	(再掲のため、省略)	
4	沖縄振興開発金融公庫貸付制度(海外展開貸付制度) 【沖縄振興開発金融公庫】	30年度末泡盛製造業者の海外展開貸付制度による貸付残高：実績無し。	各事業者の個別の資金需要に対応
5	関税引き下げに向けた交渉 【外務省、国税庁】	各国地域との協議や経済連携協定交渉、日台貿易経済会議等を通じた関税引き下げに係る働きかけを実施。	各種経済連携協定交渉等を通じた関税引き下げの働きかけを継続。
6	米国における蒸留酒の容器・容量規制の緩和 【国税庁】	10月 日米貿易協定において、米国が、蒸留酒の容量規制の改正に向けた手続を進めることを約束。	日米貿易協定に関連して作成された交換公文に沿って、当該手続の適切な履行を米国へ働きかける。
7	海外販路拡大に向けた支援窓口への誘導 【沖縄国税事務所、(独)日本貿易振興機構】	酒造組合の会合等において、JETROの取組等を紹介。	引き続きJETROと協力し、泡盛製造者等のニーズを把握し、活動を支援。

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
(6) インバウンドとの連携			
1	クルーズ船内での包括的プロモーション 【沖縄県酒造組合】	- 沖縄国税事務所と協力して、ゲンティン香港の「ワールドドリーム」船内で、泡盛などの試飲会をはじめ、利き酒イベントやワークショップなどのプロモーションを開催した。 ① 6月14日～16日 香港周遊（4,500名） ② 6月16日～18日 香港⇒那覇（3,500名） ③ 9月28日～29日 香港周遊（3,300名） ② 9月29日～10月2日 香港⇒ベトナム⇒香港（3,500名） ※台風の影響によりルート変更をしたため。	今後、泡盛の認知度向上や飲用経験を増やすだけでなく、琉球王国時代から連綿と続いている、沖縄のアイデンティティである「琉球泡盛」をしっかりと沖縄固有の文化として認識してもらうため、泡盛にまつわる物語をはじめ、地域との結びつき、根付き方など、琉球泡盛を通じた文化交流の体験を、酒蔵ツーリズムで展開していくことを目指す。

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
2	地域性を兼ねた包括的酒蔵ツーリズムの展開 【沖縄県酒造組合】	4月13日、14日 県内の泡盛酒造所（40社）が一堂に集まったイベント「第2回島酒フェスタ」を、セルラーパーク那覇で開催。 - 泡盛の歴史文化に纏わるワークショップの開催。 - 各地域ごとに酒造所を配置し、地域の特色を出せるようにした。 ※来場客数：1万4,649人 ※酒造所総売上：1,581万円	- 第3回島酒フェスタ開催 日時：2020年4月11日（土）～12日（日） 場所：セルラーパーク那覇 - 第35代泡盛の女王選手大会も島酒フェスタにて併せて開催（2020年7月1日就任） - 第2回島酒フェスタで実施した各種施策を、さらにブラッシュアップしたうえで、各地域ごとの個性と各酒造所の親和性を見出した、酒蔵ツーリズムに展開していく施策に繋げていく。 ①地域ごとの「エリアテーマ」の設定 ②設定した「エリアテーマ」を想定したターゲティング ⇒①と②を踏まえて、どのような「恩恵（ベネフィット）」をその消費者に提供できるかを、地域回遊型の酒蔵ツーリズムの施策として体系だてて構築していく。

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
3	海外航空会等への酒造所PR 【（一財）沖縄観光コンベンション ビューロー】	- 就航時には、航空会社主催のメディアツアーや、FAMツアーが開催されており、取材行程の中での「泡盛」の露出に努めている。（8月ジェットスターアジアと連携） - 既存就航便においても、定期的な顧客マーケティングを目的にメディアツアーを開催しており、その際の「泡盛」コンテンツの活用を提案。	東南アジアからは、今後も新規のLCCの参入の可能性（1月22日就航予定/マレーシア）もあることから、就航時のキャンペーンイベントや、メディアツアー、旅行社のFAMツアーにおいて積極的に「泡盛」を発信予定。
4	泡盛振興推進部会・海外販路開拓WT 【沖縄県、沖縄県酒造組合】	11月28日 WTを開催し、以下について意見交換を実施。 ①海外販路拡大に係る酒造組合等の取り組み（クルーズ船や羽田空港でのプロモーション）について ②観光コンテンツとして、日本遺産（泡盛）の活用方法、など	酒造組合が実施する取組について、関係機関の意見を反映させ、より効果的な取り組みになるよう繋げていく。
5	泡盛振興推進部会・クルーズ船関連WT 【沖縄県、沖縄県酒造組合】	11月28日 WTを開催し、以下について意見交換を実施。 ①増加するインバンドを取り込む取組について（特にクルーズ船から下船した観光客に対する島酒ツーリズムの活用方法）など	酒造組合が実施する取組について、関係機関の意見を反映させ、より効果的な取り組みになるよう繋げていく。

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
6	訪日外国人による酒蔵訪問の受入体制整備 【観光庁】	・ 泡盛の魅力を訪日外国人旅行者にも分かりやすく伝えるため、泡盛に関する英語解説文を作成する。 ① 5月10日 事業説明会実施 ② 5月中旬～ 多言語解説文を作成する項目を沖縄県酒造組合と検討 ③ 11月上旬～ 現地取材実施	・ 現地取材結果を踏まえ、専門人材による執筆・監修・校閲を経て、3月末に沖縄県酒造組合へ納品する予定。 ① 12月～3月 執筆・監修・校閲 ② 3月末 地域（沖縄県酒造組合）へ納品